

産社を卒業したのは1987年。その後大阪の私大職員を経て、1990年から大学院社会学研究科で学び直し、1996年から2つの国立大（法人）で教員として働き、この4月、母校に戻ってきました。「障害のある子どもと家族の地域生活支援」を研究テーマとして、障害児の放課後保障の取り組みに注目しています。また、1994年以来ベトナムに毎年通い、アジアの発展途上国における障害者問題についても研究しています。講義は、コミュニティケア論と社会福祉調査論を担当しています。

### 1. 専門演習の目標

地域社会、地域生活における福祉問題の実態把握とその解決に向けた活動、運動、政策課題について学びます。福祉問題に対する問題意識を持って、自らの課題として考察し、4回生では卒業論文執筆に取り組みます。福祉に関するフィールドワーク（社会福祉調査）にも取り組み、福祉問題への問題意識を高め、実態把握の意味を理解します。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

人々の生存権（生活権）や発達権を保障することは、地域社会において、どのような取り組みや制度、政策が具体的に必要なのか、課題解決に向けてどうあるべきか、どうすべきか、探求します。障害のある子ども、高齢者、その家族に関わる地域福祉に関する先行研究、文献、資料を読み解く「読解力」と実態を把握する「観察力」、問題解決に向けた論理的な「思考力」を高めることを基本とします。

### 3. 授業の進め方・内容

3回生前期は、テーマに関わる基礎的文献を読み、報告してもらいます（毎回、全員がレジюме作成とプレゼン）。3回生後期は、各自のテーマを明確にしながらの個人研究報告に取り組みます。

4回生前期は、就活と並行して卒論テーマに関する文献の収集と読破（読書ノートづくり）に取り組みます。4回生後期は、各自のテーマに沿った卒業論文を完成させます。

なお、2回生クラス懇談会以後にレポート課題を課し、3回生時には福祉に関するフィールドワーク（社会福祉調査）、学生ゼミナール大会での発表に取り組む予定です。

### 4. 必要とする知識

児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、公的扶助（生活保護、貧困問題）のいずれかの分野に関する問題意識を持ち、基本的な知識を備えていること。

### 5. 関連する分野・科目・知識

コミュニティケア論と社会福祉調査論、地域福祉論を履修しておくこと（同時履修可）。権利保障や社会開発、国際福祉など、社会科学全般の幅広い基礎知識も必要です。

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

『障害のある子ども・家族とコミュニティケア』は事前に読んでおいて欲しい。そのほか、適宜、紹介します。

### 7. 独自に付加する選考方法

「選考レポート」提出前に個別面接（オフィスアワー等で）を行いますので、本演習希望者は事前にメールで時間帯を予約すること。

### 8. 受講生に望むこと

「回り道を厭わない」積極性を持ち、ゼミという学びのコミュニティで仲間を大切にして、感性を磨き、理性を高めたい人の受講を望みます。